

第3回 十和地域まちづくり推進協議会 会議録要旨

【日 時】 平成31年1月31日（木）午後6時00分～7時15分

【出席者】 宮地孝夫委員、安藤岳委員、八木敏伸委員、中平ゆかり委員、川下徳之委員、矢野健一委員、酒井紀子委員

【行政側】 竹本地域振興局長、酒井町民生活課長、大元まちづくり推進室室長、坂東四万十川対策室主任、富田地域振興課副課長、西尾まちづくり推進室主査、竹村まちづくり推進室主事、井口地域振興課主査

【傍聴人】 1名

【議事及び質疑応答】

議事

(1) 魚道について

(富田_地域振興課副課長)

前回会議で、四万十川まつりの在り方についてと、魚道の可能性を事務局に確認してもらったという事で終わっていた。

(安藤岳委員)

今日は魚道についてから話し合いたいと思うが、まずは前回以降、本庁の四万十川対策室が県土木事務所へ確認に行ってくれたのでその結果を聞きたいと思う。

(井口_地域振興課主査)

お手元の配布資料「四万十川支流への魚道整備について」を見ていただきたい。前回の会でお出された魚道候補地が、本当にここで合っているのかまずは確認させてほしい。地図、航空写真で上空からの様子を載せたが、その裏面には現地に行って撮影した現場写真を掲載した。ご覧のとおり、堰の奥には頭首工がある。頭首工とは、河川などから用水を取り入れる農業水利施設の総称のこと。仮にこの場所へ魚道を設置して、地域の田んぼや畑などに水を取り入れることに何らかの支障がでないか心配はある。

この堰は本流から数えて最初の堰になると思われるが、ここからさらに100mほど上流に進むと2番目の堰がある。例えばこの最初の堰に魚道を設置したとしても、魚は水の冷たいところを求めて上流に移動するので、当然2番目の堰も連動して整備しないことには一定の効果は見込めないと思われる。魚道の設置に向け具体的に動くとなった場合、設計なども含めるとそれなりの予算が伴う。また、そもそもこの河川にどれぐらいの魚が遡上しているかご存知の委員の皆さんにお伺いしたい。この、まちづくり推進協議会が出た意見（魚道の設置）に現実性を持たせるのなら、町長への意見書（要望）という形で取りまとめることも視野に入れながら進めていきたい。それで今日は四万十川対策室から

坂東主任が来ているので、魚道設置の可能性についてお話いただきたい。

(坂東_四万十川対策室主任)

高知県土木事務所への問い合わせ結果について。魚道候補地を示しながら問い合わせたところ、まずは許可申請を提出してくれたら魚道の設置は不可能な話ではないということが分かった。堰が町管理か、地元管理か、県管理かによってのちの手續きが変わる。魚道にも様々なタイプがあるが、100～200万円から始められるものもある。一番簡単なやり方は、土嚢で仮に魚道をつくる方法。管理が万が一、地元だった場合は地元の許可が要る。

本日の配布資料のなかに「小さな自然再生サミット」というレジュメを用意させてもらった。これは、1/26～27に神戸市において行われた「小さな自然再生」研究会および日本河川・流域再生ネットワークが主催するサミットにおいて配布されたもので、四万十川対策室も出張で行ってきた。そのなかで低コストにできる魚道の話があった。大規模な河川工事などをしなくても、ホームセンターで手に入るような土嚢や間伐材などを利用して費用を抑えて魚道をつくった事例も実際にあると知った。資料中、11ページには高知県の事例紹介も載っている。(土佐清水市の三崎川) また、魚道を作るための資金をクラウドファンディングで得たという事例もあった。

(川下徳之委員)

候補地の長沢川は鮎が遡上する谷でこの堰堤も大水の時、小さい鮎だが数十匹は上がる。堰については、たしかに2番目の堰が少し進んだ場所にある。そこは、最初の堰よりも高さがある。それを考えると、魚道の設置場所として理想的なのはここよりも、戸川に行く谷のほうではないかという気がする。堰(というより巨石で自然にできた堰)さえ無くなれば、その奥はしばらく無いので、こちらのほうが検証しやすいと思う。魚道の形についてだが、みんなが想像しているのはゆるやかな傾斜で、水の流れが直流のものだと思う。しかし、魚道の形には色々ある。たとえばジグザグに設置することで落差をゆるやかにし、魚が遡上しやすい形にするなど。(前方のホワイトボードに図を描いて説明) 中津川にある分は上り難いが、つづら川にある分は上りやすいので参考にしてはどうかと思う。

(井口_地域振興課主査)

ありがとうございます。今お話しに出た戸川川も現地確認の必要があると思う。ここで一旦、「そもそも魚道の話がなぜ出たか」という部分を整理したい。これまでのまちづくり推進協議会で、四万十川を中心とした滞留人口を増やすという話の中で、観光で人を集めるならまず川がきれいじゃないと魅力的に映らないので観光が生きてこない、だから環境面にスポットを当てようというのが発端だったと記憶している。環境保全という大きなくりのなかで、子どもたちへの環境教育も非常に重要であるという話が出て、酒井委員から魚道を遡上する魚を子どもたちに見せたい、またその様子をケーブルテレビで映像に収め、町内外(海外も含め)に四万十町をPRしたい…というご意見をいただいていた。

(酒井紀子委員)

ここに帰ってきたいと子供に思ってもらうには、「四万十川」がポイントだと思っている。今は本流で遊んでいる子がほとんどいない。地域への愛着を育てたい。これはふるさと教育の一環だと思う。そして四万十川に来てくれる他地域の人々との交流もしたい。性別、国籍、年代などの人の外的な多様性と、異なる価値観などの内面的な多様性も含めて、いろいろな人と触れ合うことで子どもたちが知る・学ぶ機会を増やしてあげたい。

(川下徳之委員)

さっき話に出た戸川川の魚道候補地は、小さい子どももしゃくり漁をしやすい場所。ケーブルテレビのネット配信も含めて、そういうことをするには絶好のモデルポイント(場所)だと思う。自分は、こういう会議で出た住民の声で、行政が動くというスタイルを広く発信したい。ここが重要。行政が何かを決めて物事が動くんじゃないくて、住民たちから声があがって、その要望に応えるために行政が動く。ああ、四万十町という町はそういう事が出来る町なんだと。だから、このまちづくり推進協議会が出た意見は意見書として事務局にペーパーへまとめてほしい。

(富田_地域振興課副課長)

了解しました。皆さんの想いや目的など、魚道整備を要望する背景を入れながら、候補地を戸川川とし、意見書の案を作成し、次回の会議でお示しする。ただしその候補地は、本当にその奥に堰堤がないのか、また先ほど話に出た堰のような役目を果たしている巨石に、地域の謂れのようなものがないか、地域の方にも話を聞き、最終候補地を定める必要がある。そしてほしいの川幅や魚道の形状(ジグザク状)に目安がいたら、魚道整備に必要なコスト試算ぐらいはできるかもしれない。可能性を探りたい。

(川下徳之委員)

四万十川対策室の坂東さん、冒頭に低コストでできる魚道の話もしてもらったが、何か意見はないか。

(坂東_四万十川対策室主任)

魚道設置をするなら、その作業に子どもも参加させたら面白いと思う。その様子をケーブルテレビで映してもらうとか。実際、他地域で魚道を設置した際、環境教育の一環という意味合いで子どもも参加してもらったところもある。

(安藤岳委員)

子どもに負担のかかる作業や危険な作業は無いか確認の上、安全が確保されれば設置作業の一端を

担ってもらうことは良いと思う。

(酒井紀子委員)

魚道設置の計画段階から、子どもも参加型にしてほしい。どうしてこれ(魚道)を作るのか、理由をきちんと話して、伝えていくことが大切だと思うので。

(川下徳之委員)

魚道設置に向けては委員会などが立ち上がるのだろうか。もしそういう検討の場があったら、このまちづくりのメンバーもぜひ呼んで欲しい。まちづくり推進室大元室長、なにか意見はないか。

(大元_まちづくり推進室室長)

ただ魚道を作りたいということだけでなく、その前段の議論が大事だと思っている。富田副課長が言われたように、魚道作りを目指す背景も含めて紙へまとめてほしい。

(川下徳之委員)

それでは、次の議題に移りたいと思う。続いては、四万十川まつりについて。まずは事務局、資料の説明等お願いしたい。

議事

(2) 四万十川まつりと十和地域で行われているイベントについて

(富田_地域振興課副課長)

第2回の会合のなかで、山本大輔委員から十和地域に関係のあるイベント一覧を示してほしいと要望があり、作成した。1枚目が年間スケジュールで、開催時期・イベント名・主催団体名を掲載したもの。2枚目が昨年8月に開催された第44回四万十川まつりのチラシ。こちらは参考として印刷した。ただ、事務局としても四万十川まつりの議題はどうやって進めてよいか、本日の会議資料を整えるのもかなり迷った。というのは、四万十川まつりの主催は役場ではなく、十和連合青年団だから。青年団も年々、人が減っている中でそれでも若手たちが頑張ってくれている。このまちづくり推進協議会として、青年団をゲストに呼べば本人らの悩みも聞くことはできるだろうが、祭りの活性化という根本的な問題は彼らを呼んだからと言ってすぐに解決することではないと思うし、議論のなかで責めるようなことはしたくないという想いもある。

(八木敏伸委員)

イベントということで、村民運動会の復活も賛否両論あったが、やってみて実際に地域は盛り上がった。人を集める世話役の人々は苦勞もあったかもしれないが…。そういう世話役の仕組みを参考にしてはどうだろうか。

(酒井紀子委員)

住民も、昔と比べて今はお互いの関係性が薄れたから、地域おこし協力隊とか移住者とかが新しい風をこの十和へ持ってきてくれたと思う。もったいないのは、情報が全部ぶつ切りになっていること。青年団がこんなに祭りの運営に困っていることも知らなかった。そういう人は結構いると思う。また青年団側も、どこにどんな要望を言って良いのか分からないのではないかな。祭りを盛り上げるための人のつながりができたらいいなと思う。いわゆる、地域コーディネーター。

(川下徳之委員)

だいたい、いつもリーダーは困っている。ずっと前から先導はそう。四万十川に想いがあってここに来ている人は、それなりの数が居る。移住者たちは地域のコミュニティに積極的に入ろうと、本気で思っている人々が多い。想いもあるし、体も動く人。ここに声をかけることが重要と思う。

(酒井紀子委員)

例えば十和トレイルランニングもそうだが、魅力はあるけど広く発信するその仕方が分からないという地元の高齢者は居る。また逆に、手伝いたいけど誰に言えば良いのか分からない人が居ることも事実。みんな、一人でそんなに頑張らなくても良い。お互いのニーズ同士を繋げる仕組みが要る。全部、ぶつぶつと途切れていてもったいない。

(矢野健一委員)

イベント等へ出てくれる人集めが実は一番労力を使う。実際に中心になって人を集めるのは大変なこと。協力隊や移住者に声をかけると集まってくれるが、「いつも出てきてくれる人」に毎回頼みやすいからとお願いするのもおかしいと思う。基本的なことだが、主催者側の核になる部分はしっかりしていないと。核のまわりをがっちりサポート、が理想。人集めに苦勞しているイベントは、十和地域振興局の発信で「みんな協力してや！」と言ってほしい。イベント用に、地域外からも助っ人と呼んでくることも必要ではないか。四万十川まつりが議題になっているが、新しい四万十川まつりというのを一度見てみたい。準備のための人集め段階から、人手が足りない部分にサポートを入れる。一度やったら面白いんじゃないかと思う。

四万十川まつりは代々続いてきた一大イベントで、きちんと予算を取ってやるのが大切。外からの呼び込みも。「祭りを一緒に作りませんか」と発信する。ウルトラマラソンで町外から来ている人たちにも、「夏にも来ない？」って誘うとか。

(富田_地域振興課副課長)

四万十川まつりというテーマは、みんなが入りやすいテーマであり、みんなが集まりやすいテーマでもある。自分も過去に運営側にいたし、ここにいるメンバーも「やってきたよ」という人がかなり

居る。まつりの主催である青年団は、町から年間80万円の補助金をもらっていて、まつり全体の運営にかかる予算は約200万円。残りの部分は全部、地域からの寄付でまかなっている。青年団メンバーが、家々を一軒ずつ訪問して寄付のお願いをし、資金を集めている。

ただ青年団の事務局は、実は役場の若手職員がやっている。青年団を支えるチームを作らないと、と思う。

(酒井紀子委員)

四万十川まつりだけに特化しなくても、協力グループを作っておけば十和のどこのイベントにも呼べるのではないか。そっちの方が良いように思う。

(川下徳之委員)

押しかけ女房的に、主催者側に鬱陶しがられてもOB・OGたちが「行くよ！」って行っても良いと思う。

(矢野健一委員)

昔は四万十川まつりの運営を手伝ってください、なんて言われなくても行っていた。それで当日、焼き鳥を焼いてる仲間の元へ寄って行って、来たついでに一緒に焼き鳥を焼いたりした。だけど今、青年団を卒業してだいぶ年数も経っているし、急に行って「手伝おうか」なんて言っても今の若い子たちは「あのおじさん誰」ってなるんじゃないかと思うと、ちょっと入りにくいところはある。

(川下徳之委員)

今回の会が、まちづくり推進協議会の今年度最後の会議となる。十和地域のまつり・イベントを支えるための仕組みづくりの必要性が話し合われたので、そういうグループ、いわゆる「チーム四万十(仮称)」を作るために人材集めをテーマにしないか。あらかじめチームを作っておく。助っ人みたいな。委員の皆さんにお願いしたい。「こんな人、ぜったいに来て欲しい」と思う人を、1人当たり2人ぐらい紹介してほしい。次の会までに考えてきて。

(酒井紀子委員)

以前も発言させてもらったが、やはり十和ホームページが欲しい。ここを見れば、十和のこんなことが分かる、というものを。今こんなことしてます(まつりの準備とか)、こんなメンバーにはほかのまつりにも協力してもらえます、みたいなイメージ。情報発信は最初から高額な予算でやるつもりはないので、最初はブログで。Facebookやインスタグラムではなく、ブログが良い。

(川下徳之委員)

なぜ、ブログ？

(井口_地域振興課主査)

おそらく、Facebook もインスタグラムも時系列に情報がどんどん流れて行ってしまいうからでは。この二つの SNS は、スマホの画面上に最新情報がどんどんアップされる。つまり、「見てみよう」とアプリを開いたらその段階の最新情報がアップされていて、過去の情報を探そうとするとかなり下まで画面をスクロールしないと欲しい情報までたどり着けない。一方、酒井委員ご提案のブログならカテゴリーごとにトピックスをたてられる。例えば、昨年の四万十川まつりの写真が見たいと思えば、「2018年四万十川まつりの様子」というトピックをクリックすれば写真がたくさん見られるとか、あるいは「十和のまつりに協力してくれるメンバーはこの人たち」みたいなトピックスがあればそこから協力者一覧が見られるとか。時系列じゃなく、自分の欲しい情報をゆっくり探すことができる。そして、日々の日記を書くことによって最新情報も見てもらえることができる。ブログにはそういう良さがあると思う。

(酒井紀子委員)

そう、そのイメージです。過去の情報も、簡単に探すことができるので見る方も良いと思う。問題は、誰がやるか。

(川下徳之委員)

行政で言うと、こういうのはどこが主管課になる？また、そういう十和ホームページが立ち上がったとしたらやっぱり多くの人に知ってもらいたい。例えば町の公式ホームページにリンクを貼ることは可能か？

(富田_地域振興課副課長)

まちづくりという観点でみると、主管は企画課だと思うが…

(大元_まちづくり推進室室長)

町の公式ホームページにリンクを貼り付けることは可能。バナー形式で掲載し、そこから十和ホームページに飛ぶことができるイメージだと思うが、技術的なことは企画課の情報担当に確認してみないと分からない。

(富田_地域振興課副課長)

町の公式ホームページにそれを載せたことによって、窪川地域や大正地域から「なぜ十和だけ」という声があがらないだろうか。

(酒井紀子委員)

あがったらあがったで、それはそれで良いと思う。自分たちの地域もやろうと思うなら、実行すれば良いだけ。それから、このまちづくり推進協議会は今年度は次が最後の会と聞いたが、最後はどんな形で終わるのか？

(富田_地域振興課副課長)

まとまるものであれば、十和地域まちづくり推進協議会から四万十町への提案書(案)を作って、次回の会でお示しする。ただ、皆さんの納得のいくものにならないかもしれないので、作った案を次回揉んで、軽微な修正なら会長に確認、場合によっては皆さんに郵送して確認をとらせていただきたい。それでも難しいようなら、この案件の要望は、次期委員に引き継ぐ。

【まとめ】

- ・ 行政の宿題として次回にお示しするもの
 - ◆ 魚道整備に関する意見書(案)
 - ◆ 十和ホームページを作るための提案(主管課・更新者などの具体案)

- ・ 十和まちづくり推進協議会委員(各人)が次回持ち寄るもの
 - ◆ 「チーム四万十(仮称)」を作るための人材集め(1人あたり2名ぐらい紹介者を用意する)

— 終 了 —